

ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひ、そういうことで努力していただきたいと思います。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

耐用年数に関してデータが来たというので答弁してもらいます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

建設課のほうで確認させていただきました。新保議員さんがおっしゃった39年で間違いのないということで確認させていただきます。

議長（倉又 稔君）

昼食時限のため、ここで暫時休憩をいたします。

再開を午後1時といたします。

+

午後0時09分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

事前に提出した発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、糸魚川地域医療の現状と課題、糸魚川市の対応について。

(1) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と医師・看護師確保について伺います。

なお、データは最近のものでご説明願います。

(2) 365日24時間救急医療体制の現状、糸魚川圏域での2.5次救急医療体制について伺います。

- (3) 上越、富山圏域との医療連携、新潟県との連携、新幹線を使った広域医療連携について伺います。
- (4) 市民からの地域医療への不満の声、その分析と対策について伺います。
- (5) 人口減少問題、財政問題と今後の地域医療体制について伺います。
- (6) 子供の命を守る取り組みについて伺います。
- (7) 医療・看護を志す子供たちへの支援（人材育成）について伺います。
- (8) 「糸魚川市地域医療構想」の策定、地域医療と地域包括ケアの連動について伺います。

## 2、糸魚川市の一般廃棄物対応と次期ごみ処理施設の整備について。

- (1) 「糸魚川市一般廃棄物処理基本計画」の見直しについて伺います。
- (2) 一般廃棄物最終処分場適正化事業について伺います。
- (3) 次期ごみ処理施設の整備計画、設計・工事・運営等について伺います。  
敷地の設定、施設規模の設定、ストーカ式焼却方式のメリットについて。  
公設民営方式、D B O方式のメリットについて。  
長期包括契約方式のメリットについて。  
ダブルチェック体制と行政責任について。  
市民への説明について。
- (4) 次期一般廃棄物最終処分場の整備、設計・工事・運営について伺います。
- (5) 環境教育について伺います。

## 3、権現荘問題について。

- (1) 総務文教常任委員会提出資料「平成28年度柵口温泉権現荘経営計画（見直し）」等について伺います。  
福祉施設と観光施設を混同し、運営の赤字補填に市民の税金を使い続けることについて。  
小林支配人の報酬、これまでの勤務状況とこれまでに支払った総額（交際費、調査旅行等を含む。）について。
- (2) 権現荘問題による糸魚川市の信用失墜について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年5月現在で医師は60人、看護師は26年12月の調査で280人となっており、国・県平均より少ない状況であり、医師・看護師の確保に引き続き努めてまいります。

2点目につきましては、医師会や糸魚川総合病院にご協力いただき実施いたしており、2.5次救急体制についても糸魚川総合病院での維持を支援してきております。

3点目につきましては、市外医療機関や県との連携は重要であり、努めてまいりました。新幹線の活用については、通勤範囲が拡大したことから今後、積極的な利用ができると考えております。

4点目につきましては、常勤医師が不在の診療科に対して、不安の声を聞きいたしております。引き続き関係機関が連携いたしまして要望活動を強化してまいります。

5点目につきましては、少子高齢化の進展により社会保障に係る将来の市の財政負担は、大きくなると予想されます。

6点目につきましては、乳幼児健診を初め予防接種、医療費助成などを実施しており、県の小児救急医療の相談窓口の周知にも努めております。

7点目につきましては、児童生徒が医療に興味を持てるよう教育現場と連携をして取り組みます。

8点目につきましては、市として地域医療構想の策定は考えておりませんが、県の医療構想に市の意向に反映してまいりたいと考えております。

また、在宅医療の充実と介護予防を図るため地域医療と地域包括ケアの連動は、重要と考えております。

2番目の1点目につきましては、これまでごみ処理の実績などを踏まえまして、ごみ減量の目標数値を見直しております。

2点目につきましては、昨年度、適正化事業が完了いたしましたので、今後は、環境保全に関する協定書に基づき、適正な施設の維持管理に努めてまいります。

3点目の1つ目の建設場所は、現在の清掃センター敷地内として、処理能力は1日48トンであります。

また、ストーカ式焼却方式は、長い歴史と多くの採用実績があり、経済性にすぐれております。

2つ目につきましては、事業者が設計、建設から長期的な管理運営までの一括して行うことからトータルコストを縮減できると考えております。

3つ目につきましては、長期の委託期間が担保されることにより、運営する事業者は長期にわたって計画的な施設運営が可能となり、施設運営の効率性が向上する点であります。

4つ目につきましては、事業者の選定に際しては、市と事業者の事業範囲、リスク分担を明確にするとともに市も確実にモニタリングできるよう進めてまいります。

5つ目につきましては、事業の進捗に合わせて広報紙、ホームページ、説明会、見学会などを通じて周知してまいります。

4点目につきましては、本年度からクロードシステム処分場の建設に係る基本構想、基本設計を実施し、整備内容や運営方法などについて検討してまいります。

5点目につきましては、ごみの分別とリサイクルの出前講座や市内小学校の事業において清掃センターを見学いただいております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、地域住民の福祉及び都市と農村の交流促進に資することから地域振興の拠点施設としての役割を担っており、28年度以降、黒字となるよう努めてまいります。

2つ目につきましては、27年度の報酬月額が60万円、勤務時間は3,461時間、休日数は46日となっております。21年4月からの5年間は、任期付職員としての採用であり、個人情報の保護から公表はできませんが、26年度からは、非常勤特別職として月額60万円で契約し、本年度につきましては、9月末までの半年間で月額57万円の契約であります。21年以降、支配人に係る交際費、旅費は合わせて20万9,000円となります。

2点目につきましては、26年から27年に行われた県の観光地満足度調査において権現荘の総合満足度は、前回より10ポイント近く上っていることから、今後は経営管理と労務管理を改善する中で収支の黒字確保に向けて取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

平成19年度6月に姫川病院が突然、閉院し、私たちは地域の医療体制崩壊の危機にさらされました。再びそうならないために、私は毎年6月議会で医療の現状と課題を確認し、医師確保と改善を訴えてきました。

しかしながら糸魚川圏域の地域医療の現状は、ますます厳しさを増しています。そのことへの危機感について米田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

お答えします。

今、議員がご指摘ありましたように、市のほうでも医師確保とか糸魚川総合病院の機能アップ、機能充実等に努めてまいりましたが、実際、医師の確保については、制度的なものもある中で大変苦慮しているようなところが現状でございます。常勤医の確保については、特に厳しいところがございまして、そのような中、国のほうに対して市長から通じて要望する中で、国としての制度改正などを働きかけているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ぜひ市長から、この危機感というものを出していただきたいんですよ。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

もう議員ご承知いただいていると思っているわけでありましたが、私はやはり一番、地域医療、特に医師が減るのを地域医療が崩壊すると捉えているわけございまして、これには先ほど議員がご指摘いただいたように姫川病院閉院以降、非常にこの医師確保に対しては力を入れてまいっておる次第ではありますが、現実やはり非常に厳しい状況が続いておるのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川圏域の医師・看護師の数は先ほど伺いました。それで、人口10万人当たりの医師・看護師数で国や県とほかの地域との比較ということもしていただきましたが、ここら辺の詳細を担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

平成26年末の状況で、人口10万人当たりの医師数は、全国平均で234人、新潟県平均では188人、当市では133人で、県内の20市の中では10番目となっております。

また、人口10万人当たりの看護師数は、全国平均で855人、新潟県平均で908人、当市では620人で、県内20市の中で15番目となっております。医師・看護師ともに国・県の平均よりも低い状況が続いており、深刻な医師・看護師不足の状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

先日、議会の全員協議会で示された第2次糸魚川市総合計画、この中の地域医療に関するデータでは、人口10万人当たりの糸魚川市の医師数は、平成20年で128人、22年で125人、24年で120人、26年で132人とあり、県と比べて約7割、国と比べて5割から6割と大変厳しいと。

また、今後の見通しとして、平成35年で10万人当たり133人、県の7割、国の6割の確保を目標としています。

ただ、この数が正しいのかは疑問で、実際はもっと厳しいのではないかと。というのは、糸魚川総合病院の常勤医が不足し、診療料が減っていく、非常勤対応や休診のお知らせが多い実態を見れば、この医師数は何を根拠としたものなのか。正しく状況を把握できているのかということをお願いしたいわけなんですけども、この点を整理して、いま一度ご説明いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

第2次総合計画のトピックに示しました新潟県内の数値については、新潟県が2年に1回調査して発行する新潟県福祉保健年報を引用しております。

また、全国の数値については、厚生労働省が実施している医師・歯科医師・薬剤師調査を引用し

ております。

先ほど市長が答弁いたしました医師数は、ことし5月現在において担当課の聞き取りなどにより把握した数でございます。研修医の増加により平成26年度以降、医師数はふえておりますが、議員ご指摘のとおり病院の常勤医師の不足等がありますことから大変厳しい状況であると認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

医師不足、看護師不足が続いた場合、それによって生じる最も深刻なことというのは、何だとお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

救急医療に深刻な影響が生じてくると考えられます。現在、医師会からご協力いただいております1次救急が制限されますと、2次救急へ影響が及び、救急医療の提供が厳しい状況になると考えられます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうすると365日24時間救急医療体制、そして2.5次の救急医療体制の確保のために、これまで糸魚川総合病院に集中して施設建設や機器設置を続けてきたのに、今の課長のお話のようになってしまったんでは、何のためにこれまで市民の血税を使ってきたかということになりますよね。じゃあまず、開業医の先生をふやして1次救急を担っていただくための対策というのは考えてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

新規に開業される医師への支援策として、1次救急医療業務に従事することを条件とした糸魚川市診療所開設等支援事業補助金の交付制度がございます。近年では、平成20年度から平成22年度の間で3件の交付実績となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

その場合、糸魚川総合病院の先生が独立・開業されてもいいんですけども、市外の病院から糸魚川に来ていただくことが望ましいですね。そのあたりの工夫もこれから考えていただきたいと思っています。

さて、糸魚川圏域での2.5次救急医療体制の継続については、行政も病院に任せっきりとはしていないと思います。最近の事例としてどのような取り組みがあるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

平成24年度の救急外来棟の整備など糸魚川総合病院と連携して進めてきておりまして、平成27年度に施設整備として準高度急性期病床整備に支援を行いました。高度急性期から慢性期までを市内で完結できるよう高度急性期医療の充実と確保に努めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

これまで糸魚川市としては、糸魚川圏域でそういったことが完結できるように総合病院に多大な投資をしてきたし、またこれからもしていかなければいけない状況は続くと思います。

ただ、3月議会での五十嵐議員の質問にあったように市民の中には殿様商売云々と。それから、糸魚川総合病院への投資がどのくらい効果を出しているのか疑問だという人もいるかもしれません。私、これ残念なことだと思います。糸魚川総合病院では、医師・看護師が不足する中で、地域における効率的に質の高い医療提供ができるように整備を進め、行政もそれを支援してきたことが市民に理解されていないと、そういうことになりませんか。その原因はどこにあるのか、米田市長は、この点、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

現状について市民の方々が理解してないということで、情報の提供が不足してるのかなと感じておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ことし1月に市民厚生常任委員会で、糸魚川総合病院にて樋口病院長先生から糸魚川地域として独自の医療ビジョンが必要だと伺いました。それは先ほどからの話で、県の示す二次医療圏単位、つまり上越地区全体での高度急性期医療確保ではなくて、糸魚川圏域での高度急性期、急性期、回復期医療の確保と診療科の確保、それとこれまで糸魚川総合病院へ投資し、整備してきた産科病棟、循環器棟、救急外来棟、地域包括ケア病棟、ハイケアユニットの活用、そして最も必要なことが人への投資で、初期研修医の確保、総合診療医の養成、専門医の確保、看護師確保、専門看護師の養成、専門医療職の確保を目指す地域医療だと思います。

そこで、糸魚川総合病院が戦略的に進めるのが、病院に研修医をふやして総合診療医を育てることであったわけですが、今度の新しい専門医制度の改正がどう影響していくか分析してありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

新専門医制度については、平成29年度のスタートに向けて準備をしているとお聞きしております。今後、詳しい内容が示されると考えておりますが、今、把握しているところでは、後期研修医については、専門医制度とリンクするという事です。そうなりますと指導医を一定数確保することが必要となり、指導医がいない病院には後期研修医が来なくなるということが懸念されております。また新制度では、医師は基本領域のいずれか1つの専門医を取得することが基本で、その基本領域に総合診療専門医が加わると言われております。

そこで、糸魚川総合病院の新たな取り組みとして目指していることは、総合診療医の育成であります。また、その指導医の資格を取得しております。総合診療医の資格取得を目指す若手医師にとりまして、それは魅力ある病院となりますし、高齢化が進んでいる本市にとっても必要な診療部門となることから、今後、総合診療医の育成への支援と連携は重要と考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今後、大学病院が医師・研修医を外へ出さない。そうすると糸魚川の医師確保は大変厳しくなるということが想像できますよね。そういうことを見越して糸魚川総合病院、今までもやってきたわけでありまして、今の課長のほうからもご説明いただきましたけども、そういった取り組みに対して支援と連携と今おっしゃいましたよね、行政からはどんなこと考えてるかお聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕



議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

医師養成修学資金貸与事業と研修医の育成について支援をしており、今後、さらに周知に努めて研修医の確保に協力していきたいと考えております。研修医に来ていただき残っていただくためには、地域や病院に魅力が必要だと担当の医師からお聞きしており、そのとおりだと思います。

また、実際に研修医の育成に携わっておられる先生方の熱心な指導の成果もあり、研修医が増加してきておりますので、今後も研修医の紹介など市民の皆様の関心を高めていくよう引き続き支援は必要と考えております。

また、総合診療医育成プログラムには、地域医療に一定期間携わることとなっておりますので、能生国民健康保険診療所での研修など所長と相談しながら協力や支援についても考えてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

わかりました。そういう病院の戦略を行政のほうも理解して協力支援をしていくということなんですけれども、それを私、市民にもやはり理解していただきたいなと思うわけなんです。今、糸魚川にあるものを使って何ができるのか、こういったことを考えていく。それから、市長もこの前の定例会でお話ししましたが、医師の数というよりも偏在することが問題だという、市長お話しされてたと思います。それで、上越、富山、金沢、長野と新幹線で結ぶ広域医療連携での医師確保、医師の通勤助成を提案したいと思いますが、その点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

新幹線の通勤助成については、医師確保の手段の1つとして効果的だと考えており、現在、交付している医師確保対策事業補助金の計画や決算の状況を確認する中で、糸魚川総合病院と協議してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長にご提案するんですけど、国が医師の新幹線通勤代を負担しても私はいいと思うんですよ。これ国に提案してみたらどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まず、私はそういう具体的なところより、やはりこの地方の今、医師の少ない現状をもっともっと訴えていかなきゃいけない。そして、今また制度を変えることによってさらに偏在性が高まるところをやはりしっかり届けていかなきゃいけないと思っております。

先般の姫川病院閉院のときも直接、直談判をしたこともありますので、そういったことをやりながら、また県内の市長会だとか北信越市長会だとかいろんなところでそういう発言をさせていただいて、制度に対して地方は医師不足がさらに助長してるということをしっかり伝えていった上での、その中での施策としては、いろいろその地域に合った施策は考えていかなきゃいけないと思うわけですが、そういったところも合わせながらやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

次に、看護師が不足する状況について伺います。

医師と同様、病院のハード面が整備されても看護師がいないことで必要な医療ができていないということはありますか、いかがですか、

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

病院の正職員の看護師が不足していることは、お聞きしております。現在は非常勤やパートの看護師の任用により基準を満たしておりますが、今後も正職員がふえるよう連携しながら看護師不足の解消に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川総合病院のヒアリングでは、ハイケア病床で看護師が不足。急性期を過ぎた回復期の患者へのリハビリや在宅支援へと流れをつくる地域包括ケア病棟の運営で不足と。また、整形外科手術対応においても看護師不足と聞いております。このことを市民に訴え、潜在看護師の掘り起こしや看護師の育成を市民に強く意識してもらうことを行政がやらなければいけないんじゃないかと思

ますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

慢性的な看護師不足について、市民への周知や有資格者の掘り起こしは必要であると考えております。育成につきましては、糸魚川総合病院も再就職講習会の会場となっておりますので、より身近な会場で受講ができますことから、市内の潜在看護職の方から積極的に受講していただけるようPRに努めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

その点もよろしく願いいたします。

次に、救急搬送について、糸魚川で処置対応できない場合の市外への搬送連携は、改善されましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

救急隊員が現場で症状を確認いたしまして、市内の医療機関に収容可能かそうでないかということとを医師と話をさせていただく中で収容医療機関を選定しております。

また、市内の医療機関に収容後、別の医療機関に搬送する、いわゆる転院搬送ですけれども、これにつきましても収容医療機関の医師と転院搬送先の医師が連絡をとり、対応をしておりますので、連携はとれているとそういうふうに認識をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市外の搬送の例が多くて、命を落とす場合も多いということから市民から声が出てますよね。だから、改善ということをしていただきたい。その点を伺いたいんだけど、そういったことというのは、話されてませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

救急の広域搬送とか、今、言われる転院搬送とかということも含めまして、県内ではドクターヘリというものも1機整備されておりますし、また秋には、もう1機入るといふようなこともあります。そういうことも含めまして近県との連携も含めて県内のドクターヘリというように含めて連携が図られていく、改善されていくものというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

新潟県と富山県、糸魚川市はどちらからも助けていただかなければいけませんよね。

そこで、ドクターヘリが今、話出ましたけど、ドクターヘリについては新潟県よりも富山県にお願いしたほうが助かる確率というのは高いんじゃないでしょうか。そういったことはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

議員言われるように、新潟から、また長岡から飛んでくるというよりも富山県のほうが近いです。距離的にも時間的にも近いです。この連携につきましても、今後の課題だといふふうに捉えておりますし、当方も県のほうへその辺の連携を深めていただくような方向で要望させていただいているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

次に、子供の命を守る取り組みについて伺います。

まず、このことが第2次糸魚川市総合計画にはないように思うんですが、この点について、子供の命を軽く考えてるんじゃないですかね、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

第2次総合計画の基本計画第1章では、主要事業の中に妊婦アシスト事業として妊産婦の健診があります。

また、第2節のほうでは、病後児保育があるわけでありまして、高校卒業まで拡大をいたしました子ども医療費の助成や、また予防接種事業がありません。この辺のところを入れる方向で今

後、調整してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、話が出ました。それで、毎年聞いてるんですけども、子ども医療費の入院助成、それから通院助成、ひとり親家庭等の医療費の助成、各種予防接種助成などの子供の医療対応について、この1年間で子供の予防医療で改善・拡大されたことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

子ども医療費、入院助成及びひとり親家庭の助成につきましては、前年度と変更ございませんけれども、インフルエンザの接種費用の助成につきましては、昨年10月より対象年齢をゼロ歳から13歳未満までだったものを中学3年生と高校3年生及び妊婦までに拡大をいたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

それは、県内の他市と比較した場合によいのか、普通なのか、悪いのか、どの位置にあるんだか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

県内20市の中での比較ということでございますけれども、子ども医療費の助成につきましては、子供の数にかかわらず入院・通院とも高校卒業まで対象にしたということで平成26年9月から実施しているわけですが、県内でも当時は2番目でありました。現在、対象年齢を高校卒業まで拡大しているのは、20市中7市でございます。そういう意味では、よいほうかなというふうに考えておりますし、インフルエンザの予防接種につきましても20市中10市までが実施しております、大半が1回1,000円というところでありますけれども、糸魚川の場合は1,500円までということに拡大しておりますので、及び妊婦もやっているのは、それぞれ1市ということですので、これについてもよいほうであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ぜひそのレベルをキープしていただきたいと思います。

それと子供の医療についての行政からの情報の出し方、救急夜間の対応への行政支援など、私毎回、提言をしてきたんですけども、この1年間で改善されたことがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

議員おっしゃいますように市といたしまして、市民に対して救急医療体制を適正に利用していただくというためには、必要な情報をちゃんと啓発する必要があるというふうに思っております。そういう意味で市のホームページのトップ画面左側にはバナーがあります。これについては、デザイン等のご要望もありましたが、今のところは変更はしておりません。

ただ、しかし現在も子育てお役立ちブックというのを、改訂版を今、出しております。これは、子供さんが産まれたときに届け出、配付するものでありますけども、これもホームページからはダウンロードできますし、今後は母子手帳とかそういう中でもそういうものをうたっていきたいというふうに思っております。そういう意味で余り昨年とはかわりばえはしないわけではありますが、今後、毎週1回出している安全・安心メール、こういうものにパパママにこここメール配信中というサイトがございます。こういうものも加入促進を図るとともに健診情報や子育て情報、またその中に子供の医療情報も発信してまいりたいというふうに考えておりますし、今、こういうふうに名刺サイズのものでございます。こういうものもいろいろ活用しているところ配ったりしてまいりたいというふうに思っております。そういう意味で的確な情報を大勢の方に配信するということが大事なというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

これが役立っている情報かどうかの検証ですよね。やはり市民の方からその辺のご意見を聞いたりと、きめ細やかにやっているかというところが大事だと思うんですけど、昨年と変わりませんということじゃなくて、必ずそこら辺は市民の意見を聞いて、双方向性の中で新しい形考えていただきたい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

いろいろな場面を通じて妊婦の方、また健診に来られた折、そういうのを捉まえてなるべく多くの方々から今ある情報のやり方でいいのか、また今後、いい方法があるか、そういうものの意見を吸い上げて、また実際にやれるものはしっかりやってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

次に、医療・看護を志す子供たちの育成支援について伺います。

地域で育った子供がさまざまな医療従事者になって、地域に帰って医療を担ってもらうことが医療確保の切り札です。地元から医療・看護の従事者を出すことが行政の使命、ミッションとなっているのではないのでしょうか。この点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

議員ご指摘のとおり地域の医療を支える上で、医療・看護に従事する人材を輩出するという事は、重要なことと考えております。糸魚川高校の進路状況を見ますと、医療・看護の専門学校への進学ですが、平成26年度の卒業生のうち、医療・看護の専門学校へ進んだのが9名、27年度が22名というふうにふえております。進路先として医療・看護の道を考えている生徒がふえている状況にあるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

地域の子供たちは本当に医療不足を心配してるんですよ。そのことがわかったのは、昨年、私が青海中学校の授業、ポスターセッション、その例をこの議会の中でも挙げさせていただきましたけども、医療・看護の道を進む子供たち、何とか伸ばしてあげたい、地域の力で。それには医療・看護の道を志す子供たちのモチベーションを上げる取り組みとして、市内の中学生が医療機関の専門家と意見交換する市民フォーラムの開催などどうでしょうかということも、昨年、提言をさせていただきました。

当時の教育長からは、キャリア教育として重要なことと思う。計画の中に組み入れられるかどうか各学校と検討すると答弁をいただきました。その後、どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

青海中学校の市活性化計画の発表につきましては、毎年実施をしております。議員もそれに参加をしていただいているというふうに聞いております。今年度は、この議場を使って行政、あるいは議員の皆さん等に対して自分たちの意見を発表するというような計画を立案しているというふうに聞いております。

医療関係者との意見交換の市民フォーラムということの開催につきましては、今現在、まだ検討を重ねている最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

フォーラムといっても一方的に話しするんじゃなくて、やっぱりこの糸魚川の地域医療の危機感というものを共有するという目的でそういったものが必要なんじゃないでしょうか。ぜひ開催をしていただきたいと思います。糸魚川総合病院のほうからは、そういう機会、ぜひ設けてもらいたいと言われてるんですよ。やっぱり医療の現場は、相当危機感持ってますよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

12月に県の高等学校教育課主催のキャリア教育フォーラムが、当市で開催されることになっております。その内容の1つとして、この医療・看護に志すことについてのテーマを主催者側のほうに提案をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

提言になるかと思うんですけど、医療の人材を地元で育てないところからも来てくれない時代だという危機感を、まず行政が持たないと糸魚川の地域の医療はいずれ近いうちに崩壊すると。そのくらいの思いを市民みんなで共有する必要性を私はここで強く訴えたいと思います。こういったことを地域医療フォーラムのテーマになると思うんですけど、そこまで考えていただきたい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（山本 修君）

市民みんなでその危機感を共有するということは大切なことかと思えます。子供たちの進路先・キャリアについて考えるときには、やはり周りの大人の意見というものは非常に大切になってきます。市民の皆さんと一緒にこの地域の医療について考えること、これについても今度、健康増進課と連携して考えていきたいというふうに思っております。



〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

答弁が前向きになってるので、ぜひお願いしたいと思います。

それで、糸魚川市の地域医療構想の策定についてという話をもう一度させていただきますけども、これは今回の私の質問のまとめなんですけど、人口減少問題、財政問題と今後の地域医療体制を考えれば、限られた医療資源の活用には限界があります。今後、糸魚川では必要な医療確保が困難と予想できます。市民からの不満の声への対応も心配です。

そこで、今、私たちにできることは、糸魚川でできる医療をいかに継続するかを考えて、市独自のビジョンとしてまとめて市民に示し、危機感を市民と共有することではないかと。それには糸魚川市の地域医療構想というものを策定する必要があるんじゃないかと思うんですけど、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

議員がおっしゃっているように糸魚川市の医療の危機的な状況については、やはり市民の皆様と意識を共有する必要があると思います。そういう中では、糸魚川総合病院と連携する中で先ほどからお話に出ております総合診療医とか、今後も地域医療構想について上越圏域で今、計画を策定しておりますし、その中で病床について見直しを行っておりますし、そのような中で具体的にいろいろな中で構想を策定をしておりますし、そういう現状について市民の皆様にご理解いただくような機会をつくっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

それが行政の大きな役割だと思います。しっかりやっていただきたいと思います。

加えて行政は、市内での出産やできる手術は、市内でできるように病院の利用を市民に訴えることも地域医療確保には必要なことであり、戦略的に行政がそのマネジメントもするべきじゃないかなと私は考えます。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

お答えいたします。

1人でも多くの市民の方から市内の医療機関を利用していただけるよう、また地元の総合病院で出産するメリットなどの周知にも努めてまいります。地域医療を確保するためには、市民の皆様の

理解や協力が必要であることを皆様に訴えてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

時間の関係上、地域医療と地域包括ケアの連動は、委員会のほうで伺っていきたいと思います。

次のごみ処理への質問へと移ります。

1回目の市長からの答弁では、公設民営方式のメリット、DBO方式のメリットについての説明がなかったんで、この2回目の質問の中でしっかりお答えいただきたいと思います。

平成14年に供用を開始したもののトラブル続きであった炭化炉方式のごみ焼却施設の修繕とごみ処理において、また平成15年から基準値を超える有害物質を長年にわたり処理場に埋め立て続けた、その適正化工事において、これまで多大な費用がかかり、市民に大きな迷惑をかけたことへの反省を今後のごみ処理施設の建設と運営に生かすべきだと思いますが、その点、米田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういった経験にのっとり、今ある焼却炉の建てかえについて、今、検討に入っていきたいということで、ストーカ方式にまとめていただき、今、進めている段階でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、詳細の質問なんですけど、まず一般廃棄物処理基本計画中間見直し資料で示された目標値のうち、5年後の計画人口とごみ量についてどのように分析し、目標値を定められたのか、合わせて、その目標実現のための運営計画の考え方を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

人口につきましては、国立社会保障人口問題研究所の人口推計に準拠いたしまして推計したものでございます。1日1人当たりのごみ排出量につきましては、22年度より26年度につきましては30グラム減少いたしまして982グラムとなったものの、28年度の間目標値890グラムの達成が困難なことから、28年3月に策定されました県の資源循環型社会推進計画の目標値である32年度において25年度比8%削減に準拠いたしまして、31年度の1日1人当たりのごみ排

出量を924グラムといたしたものでございます。この目標に向けまして、ごみの排出抑制や資源化などについてさらなる推進を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

推進を図りたいとするその計画の運営の主体は誰なのか。

また、業務を委託する場合の責任はどこにあるのか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

ごみ処理施設の管理者につきましては、市長でございます。

運営につきましては、次期ごみ処理施設につきましては、運営業務につきまして包括的に委託する運営事業者が主体になって行うこととなりますが、市のほうについては運転日報、運転記録などで運営状況を確認いたしましてモニタリングをしていく予定でございます。

また、業務を委託する場合の責任についても最終的に市にあるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

計画の事業費の総額は幾らになるか。また、それを計画人口で負担することについて伺いたいです。糸魚川市の財政力指数を考えた場合にどうなっていくのが非常に心配です。その点、分析して計画してあるのか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

建設費につきましては、基本設計調査におきまして約60億というふうに見込んでおります。財源といたしまして国の交付金で17億円、市債で37億円、一般財源で6億円というふうに見込んでございます。

なお、環境施設基金を27年度末で約6億3,000万円積み立てておりまして、総合計画の実施計画にこの建設について位置づけて施設整備に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

それでは、次に一般廃棄物最終処分場の適正化の事業報告について伺いたいと思います。

これは、さきの市民厚生常任委員会が出された資料なんですけども、ここには市職員のエラーから生じた有害物質の埋め立てと処理に多大な費用と時間をかけたことが何と記されているか。このような事態となった原因については、ごみ処理施設への過信から検査結果を怠ったことで判明がोकくれたものであり、市職員による認識不足からこのような事態となったと書いてあるんです。これ間違いはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

この件については、5月23日開催の市民厚生常任委員会では議員の皆様のおかげからご指摘をいただいたところでございます。この皆様のご意見を反映して、事件の原因が後世に伝わるような修正作業を現在いたしております。27日開催の委員会のほうへ再度、提出したいというふうなことで、今、作業を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

課長が先にお答えいただいたんですけども、やはり問題だったと思いますよ。これ市民に大きな迷惑をかけたという反省が感じられない文章ですよ。言葉過ぎるかもしれないけど、行政責任を隠蔽している、そんな感じすらしますね。公の書類としてこれを到底認めるわけにはいかない委員会の中で申し上げまして、今、ご答弁のような形になったと思うんですけども、やはりこの事故・事件の原因が後世に伝わるようにしっかり書きかえるべきです。過ちを繰り返さないというざんげ、そういったものをもっと出すべきだと思いますよ。誰がこの原因をつくったのかという個人名を書けというんじゃないんです。ただ、糸魚川市の責任をもっと明らかにすべきですよ。そういうふうにしていただきたい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

今ほどの議員のご意見も踏まえまして修正作業を進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

よろしく申し上げます。

それで、この機会に伺いたい。適正化事業の事業費について総額で幾らになったのか。それにかかわる職員人件費は、幾らだったかということですよ。直接の事業費だけじゃなくて、職員の皆さんがたくさん動いたでしょ。そういう人件費入れて幾らになったか教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長(五十嵐久英君)

適正化工事業務委託、用地費等の直接的な経費で11億1,197万8,000円、20年度から27年度までの不燃物の運搬費等を、処理の関係で、運搬費等を含めて2億7,438万円、合計で13億7,635万8,000円であります。適正化に係る人件費につきましては、5月23日開催の市民厚生常任委員会において他の議員さんのほうからご質問をいただいたところでありまして、公会計におきましては、人件費について個々の事業に区分して経理をしておりますので正確な額を算定することはできませんけれども、今回、その指摘を受けて、事務事業評価の人件費算定の手法というものがあるんですけども、その手法に準じて試算すると、人件費については約5,000万円というふうに思われます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

5,000万円ぐらいなのかなという気がしますよね。たくさん適正化事業が発注されましたよね。その契約に係るもの、それから地域の住民説明、物すごい職員の皆さんが動いたわけじゃないですか。そうですか5,000万円ね。しかし、そういったことを示していただいたということは一歩前進かなと思います。

それで、その始末がないままにごみ処理施設への過信と市職員による認識不足からこのような事態となったという、それで済ませてしまおうというところが一番、私は心配をしております。反省もしていただいたということだと思いますが、その証明を入れない限り、また同じことが起きるんじゃないですかね。そこらあたりはどういうふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長(五十嵐久英君)

先ほどもご指摘いただきましたけども、市職員のヒューマンエラーから起こったことについて先ほど報告書等の記録に残しまして、このことを教訓にいたしまして、このヒューマンエラーからの再発について防止するとともに、管理体制の見直しを行うとともに、継続的に業務の改善や職員の意識向上に取り組み、適正な施設管理のほうへ今後とも努めてまいりたいというふうに考えており

ます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、これからのごみ処理について伺います。

平成24年から5年間のごみ処理施設の運営の状況について、その先のごみ処理施設の運営計画と事業費について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

現在のごみ処理施設の平成24年度から27年度までの4年間の運営費の1年当たりの平均ですが、約4億9,000万円でございます。次期ごみ処理施設の運営につきましては、運営部分につきましては、長期包括契約というものを考えておりまして、運営費については焼却残渣の処理費用などを含め、こちらのほうも基本設計の試算では1年間で約4億2,000万円というふうに見込んでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

多額な費用がかかっているということなんですね。それで、この前の総合計画の中でも古畑議員のほうから話があったと思うんですが、日立製作所と糸魚川市のかかわりですよ。日立製作所に今まで一体幾らぐらい払ってきましたか。もう一回、私、数字出していただきたい。建設、それから改修、運転、管理といろいろあると思いますけども、担当課のほうで整理した数字があれば出していただきたいと。把握をしていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

日立製作所のほうに払った額ということでございます。建設費のほうで29億2,950万円、あと維持関係費については、平成14年度から27年度までの合計ということでございますが、運転管理で7億4,178万円、維持・補修で5億8,471万9,000円、大規模改修で5億4,954万円、合計で48億553万9,000円であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、読み上げた数字以外で日立に払ってるものというのはいませんか、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

今、言ったものが日立製作所のほうへ建設と管理運営に係る部分ということで支払った金額でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

日立製作所との契約の見直しがあると、今までの約2億5,000万の支払いでやっていただいたものが5億円になるので、平成29年から3年間で総額約15億円、消費税抜きの15億円を日立製作所には求められるままに契約して支払っていくというような話を、この前の常任委員会で聞いたと思うんですね。これ基本的にそういうことでいいのかなということで、今ここで伺いたいんですけども、なぜかといえば糸魚川市民は日立製作所からこれまで迷惑をかけられてきたんじゃないですか。にもかかわらず先方の求めるままに1年間5億円、都合3年間で15億円払っていきこうとしているという、ここら辺の考え方ですね。この財源というのはどうなるか。それから市民負担というのはどうなるか、そこらあたりをこの機会に伺いたいなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

29年度からの3年間の総額15億円というものにつきましては、日立製作所からの提示された概算経費ということでございまして、現在、日立製作所と金額の減額について交渉しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

減額は当然必要なんですけど、交渉は必要なんですけど、行政のほうにはそれだけの知識と情報ってあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

現在、日立製作所のほうからこの概算経費のより詳細な、どういうものをこの3年間で修繕しなければいけないかというようなものを出していただきまして、市のほうと日立製作所のほうで、あと過去の今までの経過、どの時期にどの部品を交換なり修繕してきたかという部分を含めまして、今、詰めている最中というところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

また、常任委員会で伺います。

次期ごみ処理施設の整備計画について再質問しますけども、公設民営方式あるいはDBO方式とすることのメリットについて伺います。

それから、事業発注でのメリット、管理運営でのメリット、市民にとってのメリットという、その点にもできれば触れてご説明をいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

DBO方式の最大のメリットというところにつきましては、事業者につきましては、みずからが運転管理を行うことを前提に施設の設計・建設を行うという方式であるため、施設の建設と運営を合わせたトータルのコストを考えて建設しますので、そのトータルコストの縮減効果が大きくなるというところにあります。

それと管理運営でのメリットにつきましては、こちらのほうは長期包括契約と一緒になりますけども、事業者のほうは運転管理実績に基づいた設備や用役の管理をみずからの判断でできますので、施設全体の効率性が向上するということであると思います。

そして、市民にとってのメリットということについては、施設の建設・運営に係るコスト全体が縮減されるということで、ごみ処理施設に係る市民負担が軽減されるということであるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

長期包括契約による運営委託した場合のメリット、もう少し伺いたい。

20年間の業務委託契約の中で管理運営を外部に任せることでメリットを出していこうというこ



となんですけど、その仕組みをもう少し教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

市長の答弁にもありましたように、長期包括契約となりますと20年なら20年という長期間にわたって事業者としては事業の委託ができるというところで、私ら公設の場合ですと、やはり単年度主義という部分があるんですけども、やはり20年間という長期を見据えた中で用役の管理とか設備の管理とそういう部分ができるということで、そういう中でトータルで20年間見通した中でやるということで短期的な部分で切るんじゃなくて長期でやるということでそういう部分でメリットが出るというふうに言われております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

毎年毎年の契約というものを一括でやっていくということだから、そら職員の人件費もかからない、それから、先を見た運営ができるということだと思いますけども、ただ、外部委託のリスクというものも私ここで訴えたいんですよ。職員によるエラーが大きな問題を引き起こしたということもきょうずっと言ってるんですけども、外部に全部委託した場合、市のほうの管理運営責任というものも合わせて大きいものになっていくと思います。それで、そのところが一番のリスクになっていかないのかなということですよ。委託業者に任せるということで、任せ後は知らないよということじゃないとは思いますが、そこら辺のダブルチェック体制とかどういうふうにお考えですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

DBO方式なり長期包括契約におきましては、市と事業者の事業範囲とリスク分担をしっかりと定めまして、また市職員のほうが運転管理記録の確認や事業者との定例会議などを実施して情報共有を行いながら、市職員も取得している廃棄物処理施設の技術管理者としての知識を生かして事業者とのダブルチェックということを行ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

それを進めるためには、今後、公共施設の計画、建設、管理運営におけるファシリティマネジメ

ントが重要だと私は考えます。ファシリティマネジメントはご存じですね。今、市職員にこそ、このファシリティマネジメントのスキルというものが求められていると思います。意識改革をしていただきたい、そのあたり行政の認識を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

ファシリティマネジメントについては、業務用不動産を全ての経営にとって最適な状況で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法ということでお聞きをいたしておるところでございますが、職員一人一人がその意識を持って施設の適正な管理を行いまして、また、ごみ処理施設の維持管理におきますスキルアップの研修を受けるなどして適正管理に今後も努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

次期最終処分場の整備については、常任委員会の中で伺っていきます。

では、権現荘問題について2回目の質問に移ります。

支配人による放漫経営と、それを見逃してきた行政の甘いチェック体制、そこに生じた経営赤字を市民の税金で補てんしてきたことは、大きな問題です。その反省と改善が権現荘経営計画の見直しに示されるかと期待しましたが、17日の一般質問の答弁では、原能生事務所長が勝手に考えて書いたものだという。議会をだますためのものだったのじゃないかという、そんな気さえしてきます。私には、能生事務所が反省し、改善をする気があるようには感じられず、不信感は増すばかりです。行政としての責任を果たしていますか。本気で経営改善をする気はあるのでしょうか。まず、この点を米田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々は、そういった赤字体質に陥っている部分について、何とか黒字に持っていきたいという形で進めてまいったわけでありまして。しかしながら、いろいろ当然、内部の責任、内部の形態の中にもあったかもしれませんし、外部要因もあるわけでありまして。そういう中で進めていく中において、ようやく今、黒字になり始めてきたわけでございますので、そういったことをやはり我々提案いただいた中でもって取り組んできたわけでありまして。

そういうことで、全て誰々の、1人の責任ということでは、私はないと思っているわけでありまして、今そういった形で取り組ませていただいて、いろんな提言をいただく中で取り組ませていた

だいてるわけでありませう。そして、2年間のリニューアル終わった後には、2年間の経営をしっかりと見た中で指定管理に持っていきたいということで進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

続けて伺います。

平成28年度柵口温泉権現荘経営計画を見れば、これまで採算を無視して赤字の原因となった高い食材をこれからも仕入れ続ける、その理由について伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

今、28年度の権現荘の経営計画ということで5月の25日に総務文教常任委員会に出した資料を手元に持ってきましたけれども、食材について地元のものを使いたいであるとかそういうものは書いてありますけれども、高いものを使いたいというような表現はないと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

答弁の中には、そういうことがあったんですね。高い食材を買い続ける背景には、市外の仕入れ業者と小林支配人の癒着、深い関係があるんじゃないでしょうかね。小林支配人本人は、天地神明に誓って、それはないと否定しましたが、現に多額の取引があるんじゃないですか。それでも支配人と業者に癒着がないと言えますか。事務所長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

取引している金額、実績高と癒着という言葉がイコールになるかどうかは、また別問題だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

食材原価率と売上げのバランスがおかしいんですよ。一度ちゃんと伝票を突き合わせて確認をさせていただきたい。これを内部監査に任せるんじゃないで、議会として再調査をすることを私は要求したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

これまでも3月議会の予算審査の中、あるいは総務文教常任委員会の中でもお話し申し上げてきましたように、まずは内部監査でその辺の事情を周知、それから経理の状況について内部監査をし、またその状況を指定管理者選定委員会、これは外部の委員の皆さんによる委員会でございますが、そちらのほうにその状況を報告し、検証いただく。また、宿泊施設の経営の専門家によります経営分析等も実施する予定であります。そういう中において今、田原議員がおっしゃるようなところも点検してまいりたいと思っております。単純に取引高とかそういうものをもって癒着という言葉に公に使われておりますけれども、そのような状況は何か深い根拠があれば私どももさらに調査を進めていく必要があると思っておりますが、現時点においては内部監査の調査を現在、進めており、まとめている状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

支配人をかばって、これまでの経営のまずさを隠蔽するような資料を作成する、行政のそういった言動には、私、不信感しかありません。おかしいですよ。

一般質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

伊藤議員。〔12番 伊藤文博君登壇〕

12番（伊藤文博君）

清政クラブの伊藤文博です。

本日は、我々清政クラブが2月に行った政務活動、先進地視察の結果に基づいて、20年後、30年後を見据えた心と体の健康づくりについてと、若者が集うまちづくり、定住促進事業についての2点について質問いたします。

この2点については、松本市と伊那市の視察後に担当課との勉強会も開いておりますので、きょうの一般質問では、両市の取り組みを紹介しながら糸魚川市の課題を明らかにしていきたいと思っております。今後の取り組みとして一步踏み込んだ姿勢を感じられる答弁を期待しております。

1、20年後、30年後を見据えた心と体の健康づくりについて。

合併当初から「健康づくり」の重要性は、市長自らが唱えてきたところであります。当時から見ると、健康運動教室の充実、はびねすの新設と運営、幼少年に対しては早ね早起きおいしい朝ごはん、じゃれつき遊びやキッズキッチンに代表される食育の推進など、積極的に施策が推進されてき